

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇建築物の持続性と高性能化を考えるシンポジウム ー開催報告ー

■ [随想](#)

◇レソト王国旅行記（11）ーレソト王国あれこれ（その1）ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇建築物の持続性と高性能化を考えるシンポジウム ー開催報告ー

塩ビ工業・環境協会では、去る11月18日、東京大学伊藤国際学術センターで「2050年目標を見据えた建築物の持続性と高性能化を考えるシンポジウム」を、約300名のご参加をいただき開催しました。

ご承知のようにパリ協定が11月4日に発効し、産業革命以後の気温上昇を2℃以内に抑えるため、人為起源の温室効果ガス排出を今世紀後半に実質ゼロとすることを目指して、全ての国が化石燃料に頼らない「脱炭素社会」を目指す取り組みが始まりました。日本は、温室効果ガスを2030年度には2013年度比26%、2050年度には80%削減という目標を掲げて、この取り組みを推進することとなっています。今回のシンポジウムはまさに2050年度目標を目指し、日本の社会や地域コミュニティがどのように変わり、それに伴い建築物がどのように変わるべきか？について、各分野を代表する講師のお話を伺う機会となりました。

基調講演では、今回のコーディネーターである(株)三菱総合研究所/小宮山宏理事長より、「飽和の時代となった21世紀、人類は英知を絞り持続可能な社会を創らねばならず、エネルギー問題の解決は必須である」との提言をいただきました。引き続き、芝浦工業大学の秋元教授より、建物のエネルギー対策としてのZEB(ネットゼロエネルギービル)/ZEH(ネットゼロエネルギーハウス)の考え方と方向性について、(株)日建設計総合研究所の湯澤理事より、エネルギーマネジメントとまちづくりについての講演をいただきました。



講演会の様子



パネルディスカッションの様子

後半は、アズビル(株)の岡理事、パナソニック(株)ソリューションズ社の竹川専務、エコワークス(株)の小山社長よりそれぞれの分野でのプレゼンテーションをいただいた後、小宮山コーディネーターの司会の下、秋元・湯澤両講師も加わりパネルディスカッションが行われました。「断熱改修で家の資産価値が上がればZEHは進んでいく」、「2030年には改修適齢期住宅が2倍になり省エネ改修は必須となる」、

「ZEB/ZEHという言葉を広辞苑に載るくらい普及させる」などの意見が続出し、コーディネーターにより「パリ協定の2030年目標を達成するには、新築改修を問わずZEB/ZEHを直ちに進めていかねばならない」と取りまとめられて、活発な討論が終わりました。

最後になりましたが、講師の皆様、ご来場の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、本シンポジウムが2050年の日本の建築物を考える上でお役に立てることを願い、開催報告とさせていただきます。

■ 随想

◇レソト王国旅行記（11）－レソト王国あれこれ（その1）－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

太陽電池パネル

「第9回 大停電」で、レソト王国は電力不足に陥っていることを記載しました。日本もレソト王国の電力不足に対応するため、レソト王国国内に太陽電池パネルの設置を行っています。発電量は僅かですが、この時期は日差しも強いので、晴れている日は安定した発電量が確保できているようです。



両替

南アフリカ共和国のヨハネスブルグ国際空港から、レソト国際空港に到着したお客様は僅か19人。入国手続きも終わり、両替をしようと両替所を探しました。現地通貨がないと何もできないし、現在の為替レートもよく分かりませんから。ところが、国際空港なのに、両替所が見当たりません。空港の人に聞くと、「ここ数年、両替所なんて見たことがないなあ」（ということは、以前はあったのでしょうか？）。

レンタカーは、カード決済で予約をしていたので問題なく借りることができました。後から考えると、レソト王国では南アフリカ共和国の“ランド”通貨が使用できるので、このことを知っている外国人は“ランド”通貨を持ってくるので、両替所がなくても問題がないのかもしれない。

通貨

レンタカーで首都のマセルに出て、銀行で何とか両替終了。その時、銀行員が、最初、レソト王国の紙幣を渡そうとしたのですが、いきなりその紙幣を引っ込め、南アフリカ共和国の紙幣を渡してくれたのです。

ここ、レソト王国の通貨“ロティ”は南アフリカ共和国の通貨“ランド”と等価。国内では“ロティ”と“ランド”が入り混じって流通しています。“ロティ”と“ランド”の違いは、“ロティ”はレソト王国国内だけでしか使えません。外貨への両替は、レソト王国国内と南アフリカ共和国だけ行うことができます。“ランド”は当然のことですが、南アフリカ共和国でも使えますし、紙幣であれば日本をはじめ、ほとんどの国で両替が可能です。

銀行員はレソト王国国内で両替したお金が使い切れなかった場合のことを考え、南アフ

リカ共和国のランド紙幣を渡してくれたのです。国際空港に両替所がないのですから、ロティ紙幣だと、使い残した場合、どうしようもありません。

なかなかよく気が付く、ナイスな銀行員でした (^_^)v

国際空港

両替所もない小さなレソト王国の国際空港、正式には「モシヨエシヨエ1世国際空港」といいます。時刻表を見ると、月曜日～金曜日までは南アフリカ共和国のヨハネスブルグからの国際線のフライトが1日3便。週末は4便就航しているだけで、国内の路線はありません。このため、空港はのんびりしたもの。



実はこの空港、日本の援助で建設された空港です。このため、トイレはTOTO、ディスプレイはNECなど、日本製品が溢れています。一応、日本の援助で建設されたという表示はありますが、残念なことに、誰も意識していません。誰も意識していない国際援助。これはこれでいいのかもしれませんが。

救急車

救急車を見たことがないと報告しましたが、しばらくして、初めて救急車が止まっているのを見ました。カラーリングは異なりますが、どこから見ても日本の救急車。車体には日本の某財団の名前がはっきり書かれていました。

しかし、日本のように全国に消防署があり、そこに救急車が配備されているわけではありません。ハイランドで火事が起こっても一番近い消防署は首都マセル。消防車が80キロメートルの道のりを走って来たときには、もう燃えた後。救急車、首都圏専用ということでしょうか。

(続く)

次回は、(12)(終)ーレソト王国あれこれ(その2)ーです。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

新入りです。よろしくお願ひします。

先日、岩宿遺跡(群馬県)に行きました。戦後間もない時期に、全く考古学の専門教育を受けたことのない一青年が、日本には旧石器時代はなかったという定説を覆す大発見をしたところです。その後の発掘で、すでに石器を作製する職人集団の存在が明らかになっています。日本の「ものづくり」のはじまりを成した3万年前の先端技術者集団に、しばし思いを馳せました。(河童っ子)



岩宿博物館資料より
槍先形尖頭器

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
